

『一人の笑顔のために』

『和水町人権の集い』

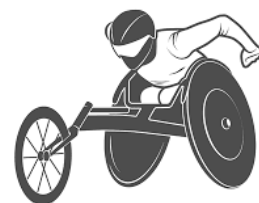
11月28日(日)、三加和公民館で第3回和水町人権の集いが開催されました。最初に「親子で綴る人権標語」の優秀作品の表彰が行われました。本校からも3名が受賞していますので紹介します。

- ◇1年生 中山 泰剛くん 見てないで 勇気を出して 声かけよう
- ◇2年生 伊藤 美空さん 「大丈夫？」 小さな一言 大きな一歩
- ◇3年生 中原 遼大くん 友達の 笑顔をいっしょに 守ろうよ

次に、和水町男女共同参画懇話会による啓発劇がありました。職場や家庭、地域で男女共同参画の意識がどうなのか考えさせられる内容でした。家庭内での男女の役割意識や、地域の区長さんは男性しかいないなど、様々な課題があることを分かりやすく示していただき、考えるきっかけとなりました。

最後に、「いのちの大切さ」と題して、菊池市身体障がい者福祉協議会会長の黒田章さんの講演がありました。黒田さんは、交差点で停車中に巻き込まれた自動車事故で片足切断という悲劇に見舞われ人生に絶望されます。家族の励ましなどによって立ち直り、その後は車いすマラソンなどのパラスポーツに生きがいを見出し、再び生きる気力を取り戻し、現在では身体障がい者の福祉向上に日々尽力されています。46歳で車いすマラソンをはじめられますが、5年後には大会で優勝、岡山国体でも2種目で優勝するなど成果をあげられている方です。

しかし、それまでには大変なつらい経験をされています。講演の中で印象に残った出来事を紹介します。



黒田さんが病院を退院されて、はじめて奥さんと買い物に行かれたときの話です。

2歳くらいの子どもの黒田さんを見て、

「あのおじちゃん、足がない。」と言ったそうです。

黒田さんは、小さい子どもの正直な反応だと思われたそうです。しかし、その後のその子の母親の言葉に衝撃を覚えられます。

その子の母親は、我が子に向かって、

「あなたも悪いことをすると足がなくなるよ！」と言われたのだそうです。

黒田さんは、自分は何も悪いことをしていないのに、なぜそのような言われ方をしなければいけないのかとショックを受けられ、それから外出することをやめられます。さらに生きる気力を失い、自ら命を絶とうとされたのです。

それを必死で止めたのが奥さんでした。奥さんは、黒田さんをびんたしながら、「事故の時、黒田さんの仕事仲間が無線で呼び掛けあって、黒田さんと同じ血液型の方が何人も集まって輸血をしてくれたこと」を黒田さんに話し、「その大切な命を無駄にしないで！」と必死で説得されたのだそうです。

黒田さんはそれから「命の重さ」を考えるようになり、生きる気力を取り戻されます。

私たちの心ない言葉が、どれだけ人を傷つけるのかを考えさせられました。

黒田さんが、講演の最後をお願いされました。今 SNS 等で簡単に「死ね」という言葉をつかって他人を誹謗中傷することが起きている。絶対にやめてほしい。